

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200108
法人名	ユニバーサルトラスト株式会社
事業所名	ケアホーム国吉あいの風
所在地	富山県高岡市国吉752-1
自己評価作成日	令和2年11月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和2年11月24日	評価結果市町村受理日	令和3年1月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者様にとって安心ができ、居心地の良い環境作りに努めています。調理（コロナ禍にて一部制限）や掃除等の家事もスタッフと利用者様が共に行い、家庭での役割りが継続できるように心掛けています。調理や掃除等を利用者様が担われる事で、少しでも楽しみや生き甲斐を感じて頂けたら嬉しく感じています。併設の小規模多機能型居宅介護の利用者様やスタッフと共に多くの関わり（コロナ禍にて一部制限）を持ち、良好な関係作りに努めています。又、スタッフも適時利用者様に喜んで頂けるような行事[納涼祭・誕生日会・畑作業・敬老会等]を企画し開催しております。月に1度程は、利用者様と季節のメニューを楽しめるように考え企画しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

「私達は家族です 一人一人の思いを大切に」の理念に基づき、利用者の思いを大切にしたい支援を実施していくことを最優先に考え、実行している。そのため、新入社員には入社式の際に、事業所の理念の確認や接遇の研修を実施している。管理者自らが経験を基に作った新規採用職員用の教育プログラムや進捗状況チェックシートなど、職場全体で新人職員をサポートしている。また、年1回全職員が参加する研修も実施している。さらに、利用者の意向をもとに支援方法を検討するため、利用者に関わりを多く持てるように職員体制を整えることや、利用者の生活をよくするための提案をしやすいような環境づくりをする等、利用者の生活を最優先に考えた事業所を作り上げている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は、ホームページにて掲載しています。ホーム内においてもホーム全体の理念とグループホーム独自の理念を掲げており、その理念は『私達は家族です 一人一人の思いを大切に』であり、フロアに掲示し意識しながら業務にあたっている。	理念は、フロア及び職員が利用するトイレに掲示しており、いつでも確認できるようにしている。理念があるように、家族の一員として利用者に寄り添い、一人ひとりの思いを大切に支援しており、ミーティングの際も理念に沿った支援方法について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内イベントの開催時に地域の義務教育学校や保育園に案内を出し、お越し頂いている。又、私達も学習発表会や運動会などに招待頂きお伺いすることもある。中学生のマラソン大会をホーム前で応援したり、地域の獅子舞を招待したりし、交流を図っている(本年度はコロナ禍で互いに自粛している)。	畑作業をしたり、事業所の周辺を散歩したりしている時に、地域の方とあいさつを交わしたり、声をかけてもらったりするなど、日常的に交流がある。現在はコロナ禍のため、保育園や中学校との交流はない状況であるが、いつでも交流できる関係性を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々や近隣の方々に、ホームの行う行事に参加頂けるよう招待状を案内している。又、運営推進会議を通して、認知症の方々との向き合い方や介護技術などの話し合いを行っている。法人ホームページでもホームの在り方等も発信している(本年度はコロナ禍にて招待や会議の自粛をしているが、その旨案内を配りご理解と情報共有に努めている)。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、第3水曜日にホームで開催している。自治会長様・民生委員様・家族代表の方・地域包括支援センターの方に参加頂き、認知症介護の話・ホームでの行事開催等を話し合っている。ホームに対する意見などもあり、ホーム運営に役立っている。(コロナ禍にて4月以降自粛中、書面報告のみ実施)	運営推進会議では、事業所内での活動が報告されている。また、避難訓練への参加依頼をしたり、水害や土砂災害が起きた場合の状況を確認している。さらにその話から地域の防災訓練の参加を勧められ、参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険法の改定やサービス実績等で疑問等がある際は、市の担当者の方に連絡・質問し、説明等を受けている。又、地域包括支援センター様とも普段より交流したり、市の支援事業『オレンジ倶楽部』にも地区の公民館で開催ある時は参加したりし、情報交換をさせて頂いている。	困った事等があった場合には、すぐに市へ相談できるような関係性が築かれている。また、事業所が市から相談を受け、利用者の受け入れにつながった事例もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約時に身体拘束を行わない事を説明している。防犯上玄関は常時施錠しているが、内側からは開錠できるようになっている。利用者様の居室の戸は内側から施錠でき本人に任せている。ミーティングで身体拘束についての研修会を行い理解を深めている。	コロナ禍で今までと同様の研修は実施できていないが、少人数で複数回実施する等、工夫して実施することで、身体拘束をしないケアの実践を意識できるようにしている。また2ヶ月に1回のミーティングでも、日頃の支援方法が身体拘束になっていないか確認し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングで虐待についての研修会を行い理解を深めている。普段より利用者様に対しての対応方法が虐待に該当しないか適宜話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングで権利擁護についての研修会を行い理解を深めている。皆で意識統一を図り、利用者様に関わっている。利用者様で成年後見制度を利用されている方がおられ支援を行っている。又、必要に応じ後見人の方とも連絡を図り情報共有に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には出来る限りホームへ来所頂き、雰囲気や環境・設備等を見学して頂いている(本年度はコロナ禍で一部制限中)。契約時には書面で御説明をさせて頂き、本人様や御家族様のご質問やご疑問・ご不安などにも、その都度ご説明し、お答えしている。又、解約についても、契約時やその必要に応じて御説明・御理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	納涼祭等のホーム行事では家族様も招待し、直接、意見等を拝聴する機会を設けている。それを行事の反省会で共有し次年度等に活かせるように努めている。又、玄関に意見箱を設置し匿名でも意見投稿出来るような環境を整備している。	面会時に、事業所の職員から進んで声をかけるようにし、家族の意見を聞くようにしている。面会に来られない場合でも、電話にて、利用者の状況を報告したうえで、意見を聞くようにしている。要望・意見は、個人ファイルやフロア日誌に記録し全スタッフが共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回のヒアリングを実施している(他にも必要に応じ開催)。それを通じて、スタッフの意見や提案等を拝聴している。そこで得た意見や提案は検討し、ミーティングや申し送りで書面・口頭にて回答させて頂いている。	年2回、面談を実施しており、職員の意見を聞く場を設けている。また、日頃から意見や提案は、管理者にその都度言える環境づくりに努めている。職員の提案により加湿器やアクリル板(可動式)の設置、本の購読などを行った。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のヒアリングを実施しているなかで、給与水準の説明・労働時間の見直し・個々の目標確認等を行っている。又、年の初めのミーティングではスタッフ各々に1年間の目標を設定してもらう機会を設け、向上心をもって働いて頂けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修や法人内研修を適宜開催・参加できる機会を確保し、業務の向上に努めている。又、新入スタッフの教育には、担当者を中心に行っている。法人として実務者研修・喀痰吸引研修の研修期間登録をしており、ホームスタッフも働きながら受講できる環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議や介護部会等の場に出席させて頂き交流を図っている。又、法人内でも1年を通して介護保険制度や介護技術の研修会を行っており、同業者と共に勉強し交流する機会を活かし、サービスの向上に努めている。(コロナ禍にて研修回数減)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時には、不安・要望等を早急に把握できるよう関わりを重視している。スタッフから話しかける等、利用者様が話しやすいような関係を築けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時には、利用者や御家族様の思いや困っている事・要望等に耳を傾け、それに基づいた計画に沿って支援していく旨の説明を行い同意を求めている。些細な事でも相談して頂けるよう、受け身の態勢で話しやすい雰囲気を中心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時には、利用者様・ご家族様・以前利用のサービス事業所から希望・ニーズを得て、必要としているサービスを支援計画に反映している。サービス導入後も常時モニタリングを行い、希望・ニーズを確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の家事などはスタッフや利用者様が一方的に行うのではなく、お互いを尊重し合い、家族のような関係で接し支援している。又、その中で、利用者様に生きがいや楽しみを感じて頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス利用前の生活を尊重し、利用開始後もスタッフ・ご家族様ともお互いの思いを一方的にならないように一緒に利用者を支えられるように、ご家族様と対話し、気持ちが通じ合える絆を築くように努め、情報共有も図っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームに少しでも馴染んで頂けるよう、心の寄り所が見つけられるよう、積極的に関わり、一緒に見つけようとして支援している。又、親族・友人等との関係維持の為、手紙・年賀状等を郵送したり、電話で交流頂いたり心掛けている。ドライブや買い物等を通じて、利用者のお住まい地域や馴染みの場所との関係が途切れないように心掛けている。	日頃の会話から馴染みの人や場を把握するようにしている。利用者の思いを大切にしており、例えば、墓参りに行けていなかった利用者の思いを実現できるように、墓周辺の環境の把握や利用者の歩行訓練を行うなど、実現に向けて、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人ひとりの他者との関係性を把握し、孤立しがちな利用者にはスタッフがさりげなく間に入りフォローし、少しでもよりどころを見つけ、その機会が増えるように支援している。又、レクリエーションでは、提供内容を楽しんで頂けるよう個別対応をしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良等により入院された場合は、退院に向けての調整を病院担当者と連絡をとり調整を行っている。サービス移行の場合では、次の事業者へ情報提供をし、不安等の相談や支援に努めスムーズに移行できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と普段接する中の会話で一人ひとりの思いや意向を汲み取り、個人記録等に記入している。又、申し送りやミーティングを通して、その思いや意向に変化がないか等、スタッフ間で情報を共有し、意識の統一を図り支援している。	日頃の言動から思いや意向を汲み取り、把握するようにしている。聞き取った思いや意向は、センター方式に落とし込み、全職員で共有している。また、年2回、センター方式の内容を更新しており、思いや意向のズレ等がないか確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や利用者へ、これまでの暮らしの事をサービス開始前より聞いたり、開始後一緒に過ごしていく事により、利用者から変化した思いも聞き把握に努め、スタッフで共有している。又、極力これまでと同じように生活できるように家具などの馴染みのものを持参して頂き安心できる生活環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ各々が広い視野や視点で利用者様一人ひとりを観察するよう努め、日々の気付いたことや発言等を個人記録やセンター方式に記入している。それを申し送りやミーティングでスタッフ間の意識統一を図り支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や御家族様の意向を確認したり、個々の思いも大切にしたりし、その希望する生活に向けた支援計画を作成している。又、利用者各々に担当スタッフを設定し、定期的なモニタリングを行っている。そこで得た評価や意向を支援計画に反映している。	利用者本人の意向と家族の意向、日頃の言動をすり合わせ、職員で話し合った上で計画書を作成している。その際、モニタリングの結果から、利用者が自分でできていることを維持できるように役割を見つけ、計画書に落とし込むようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を日々記入して、スタッフ同士情報の共有をしっかりとれるよう努めている。又、定期的なミーティングや担当者会議、モニタリングを通して支援計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の希望に応じるよう心掛けている(本年度はコロナ禍にて外出や買い物支援は一部制限・自粛している)。体調の変化の際には、利用者様やご家族様と相談し、病院送迎や受診の調整等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学校や保育園と、イベント開催時は交流したりスタッフと近所のコンビニへ買い物に出かけたりする機会を設けている(本年度はコロナ禍で自粛している)。月に1~2回ほど週末に家族宅で過ごされる利用者もおられ、個々の希望する生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族様の希望のかかりつけ医に受診して頂いている。かかりつけ医の指示のもと治療を受けれるようスタッフで情報共有と確認を行っている。又、2週間に1度程度の頻度で医師の居宅療養管理指導にも入って頂いている利用者もおられる。	希望するかかりつけ医へ、家族同行で受診してもらっている。その際、「情報提供書」に、利用者の状況を記入し、家族へ渡している。協力医を希望される場合には、往診を受けてもらっており、往診日以外であっても、体の状態に変化がみられる場合には、医師が様子を見に来る等、事業所との関係性が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調の変化や怪我等の対応にあたり、ホーム内の看護師や訪問看護師に相談・報告し情報の共有・連携を行っている。状態によっては、かかりつけ医への受診送迎や情報共有し、適切な治療を受けれるよう支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会や情報提供書で医療関係者との情報交換・相談に努めている。退院前にはカンファレンスを通し、利用者様が安心してサービス利用ができるよう支援している。又、かかりつけ医とも情報の共有をし治療の継続ができるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化した場合や終末期に対する説明は、契約時に行っている。その対応をする際はマニュアルをもとに対応し、最後をホームで迎えたいとの意向があれば家族やホーム・かかりつけ医などで十分な話し合いをし進め、系列他事業所とも情報交換している。	「重度化対応・終末期ケア対応指針」を基に、契約時に説明し、利用者の状況に応じてその都度説明し、対応している。これまで看取りの希望はなかったが、今回看取りケアの希望があったことから、研修の実施や、関係者との連絡体制等細かな内容まで取り決め、実践に向けて動いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、速やかに医療機関やご家族様に連絡をしている。状況によっては、救急車を要請することもある。普段より、事故報告書やヒヤリハットを記入し、再発防止に努めている。誤嚥や急変時の対応策についての研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、日中帯と夜間帯をなるべく交互に想定し実施している。訓練は利用者にも参加頂くことで有事に備えている。地域の防災訓練にも参加し、協力体制や連絡体制を確認できるように、自治会長様とも情報交換している。	年2回の避難訓練は、利用者も一緒に訓練に参加している。訓練後、避難に要した時間や改善点等を振り返り、次の訓練に活かしている。また、土砂災害や水害が起きた場合の避難場所や避難の仕方についても、市と相談しながら検討されている。自治会の防災訓練にも参加している。	事業所内に備蓄の確保はしてあるが、何をどの程度準備してあるのかは施設長と一部の職員しか把握していない。全職員で共有し、災害に備えていただくことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のお名前は必ず姓で呼ぶよう心掛けている。トイレや居室等に入る際は、ノックしてから入室するようにしている。また、トイレ時、周りの方々に分らないように近くまで行き声掛けを行っている。又、会話をするときは敬語を使うように努めている。	年1回研修を実施し、その際、「介護福祉士会倫理要綱」を使用している。日々支援する際に、利用者が不安にならないような声かけを意識したり、例えば、看取りの際は、本人は最後まで耳は聞こえているため反応がないように見えても最後まで寄り添い尊厳を守るなど、学んだ事を実践に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを良く図り、信頼関係を築けるよう支援を行っている。また、利用者の話を傾聴し、本人が希望することを実行できるようスタッフ同士相談している。利用者からの思いや希望の判断に時間が要す際は、スタッフから提案しそれを引き出せるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各々の生活パターンを把握し、尊重した過ごし方を支援している。体調等を考慮しながらレクリエーション等を提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で出来る利用者には衣裳タンス等から選んで頂くように配慮している。又、朝は、さりげなく整容の声を掛けたり支援をしたりしている。必要に応じ、居室にも鏡を置いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け等、目でも楽しめるよう心掛けている。月に一度手作り昼食や季節に合わせたおやつ作り等も企画している(コロナ禍にて一部自粛している)。又、ホームの畑で収穫した野菜も使用し季節感を感じて頂いている。又食器拭き等の片付けも手伝って頂いている。	コロナ禍で、外出に出かけたり、みんなで調理やおやつ作りをする時間を作れなかったりしているが、お寿司のテイクアウトを楽しんだり、畑で採れた野菜で漬物を漬けたり、手作りおやつを自分の分は自分で作って食べるような環境を整えたりする等、食事の時間が楽しみなものとなるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者各々の食事形態・食べる量を考慮し提供している。ミーティング等で検討を行っている。水分補給については、お茶のポットをフロアに出し飲みたい時に飲めるよう配慮している。又、摂取量の少ない方には声掛けし摂取して頂けるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯を使っておられる利用者には外してもらい消毒洗浄している。口腔ケアの声掛けをし、自身で出来る利用者には見守り・声掛けを行い、できない方には介助・支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄出来る利用者には時間を見て声掛けや見守りを行っている。排泄チェック表を付けることで利用者様の排泄状況をスタッフ間で共有している。又、ミーティング等を通し、一人ひとりの支援方法を検討している。	できる限りトイレで排泄することができるように、本人の思いを大切に、声かけ、誘導を行っている。本人の思いを把握する際に、本人の価値観と職員の価値観のすり合わせのため、センター方式を活用しており、利用者の排泄の自立支援につなげ成果が出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様一人ひとりにあつた下剤をかかりつけ医より預かっており、看護師・介護士連携のもと下剤をコントロールしている。又、牛乳等を提供し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調を見ながら週に2～3回入浴して頂いている。利用者の希望に沿いながら、柔軟に対応している。又、入浴剤を入れ、香りや色も楽しんで頂いている。	基本的には、午前中を入浴の時間としているが、利用者の体の状態や予定、思い等により、いつでも入浴できるよう柔軟に対応している。要望に応じ夜にシャワー浴を行ったこともあった。26日は風呂の日でゆず湯やりんご湯等工夫を凝らし楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温・照明を調節し安眠出来るよう支援している。一人ひとりの体調や生活リズムを把握し休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服薬されるのを傍で見守りして、飲まれたか確認している。又、利用者の服用している薬を一覧表にし誰が見てもわかるようにしている。体調の変化などがあれば、かかりつけ医や家族様にも相談し指示を仰ぎ対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の好みに合わせ脳トレプリントや塗り絵・パズル等を提供している。毎月のはり絵や個人作品にも取り組まれている。昼食前の体操や午後のレクリエーション、誕生会やその月のイベントに参加頂き楽しんで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には利用者の体調をみながら近所を散歩し、草・花を見ながら気分転換を図っている。又、近所のコンビニに買い物や季節に応じたドライブやショッピングセンター等へのお出かけを企画し、好みの物を召し上がって頂いている(コロナ禍にて一部自粛している)。	以前は、ドライブでショッピングセンターへ行き、開店からおやつ時までゆったり過ごしたりして利用者と一緒に楽しんでいた。現在はコロナ禍で、人が大勢いる場所への外出はできていないが、日常的に、事業所周辺の散歩に出かけたり、事業所の横にある畑で畑仕事をする等、外の空気を吸うことができる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や御家族様の理解のもと金銭をお預かりしている。利用者の欲しい物があった時や新しい衣類が必要となった時、髪をカットする時等その希望に沿って預かり金を使用している。又、自身で支払い行為が可能な方は見守りのもと行って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望時に電話を使用して頂いたり、ご家族様等からの電話を取り次ぎ会話して頂いている。又、コロナ禍にてテレビ電話で顔を見ながらの通話(オンライン面会)も支援している。年末には、年賀状の作成の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにその月の壁画や個人作品を飾り、四季を感じて頂けるよう努めている。テレビ前にソファを配置し皆でゆったりくつろげる工夫をしている。又、利用者の思いを確認しながら各々の相性も考慮し座席の配置に努めている。	フロアのテーブルやソファは、利用者の動線を考え配置されており、利用者がゆったりと過ごせるようになっている。また、フロアと廊下の照明の明るさが違い、場所によってメリハリがついている。また、窓から外の様子を見ることができ、四季を感じられるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにテレビ・ソファを配置し、利用者様同士の交流の場になっている。交流が苦手な利用者様に対してもテーブル席などで思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族様のご協力のもと馴染みの家具やテレビを持参し使って頂いている。配置も工夫し生活感が出るようにしている。	ベッドは備え付けとなっており、それ以外は、利用者本人の馴染みのものや使いやすいものを持参し、配置されている。また、居室の窓が大きく、外の様子を見ることができ、光も差し込み、明るい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア・トイレ・浴室・居室等に手すりが設置しており、安全確保と自立した生活が送れるよう配慮している。夜間は足元灯の設置やバリアフリーで移動しやすい環境になっている。トイレはトイレのマークにて分かりやすくなっている。		

2 目標達成計画

事業所名 ケアホーム国吉あいの風

作成日: 令和 3 年 1 月 14 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事業所内に備蓄の確保はしてあるが、何をどの程度準備してあるのかは施設長と一部の職員しか把握していない。	災害時の避難用備蓄品の品目・保管場所を全職員が把握し有事の際に迷わず持ちだせるようにする。	備蓄品の品目・保管場所等のリストを作成し事務所内掲示し、全職員が把握できるようにする。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。